

1. 医学部医学科教育

平成14年度に、新しいカリキュラムに基づく全学教育並びに専門教育授業が導入され、本年度で5年目を迎えた。新たな1年生に対しては、大学教育機能開発センターを中心とした授業評価とその反省のもとに、改善された授業メニューが提供された。一方、学年進行で特に専門教育を中心として新カリキュラムが正式に導入されつつある。医学教育改革に対する社会的要求はとどまるどころを知らず、緊急性も高い。そこで、平成18年7月、先端医育支援センターが設立され、3名の教員が基礎医学教育、臨床医学教育及び卒後臨床研修に関する教育内容を再検討し、改善点を見つけ出す努力を続けている。このセンターと教務委員会で臨機応変に寄せる波に対応すべく適宜、いわば“新カリキュラムの改善”と実施可能な学年から「まったなし」での改善カリキュラムの実行に取り組んでいる。

(平成18年度 医学部長：河野 茂、教務委員長：中園一郎、学生委員長：小澤寛樹、
入試委員長：青柳 潔)

A. 全学教育

平成14年度、全学教育が始まって以来の大幅改訂に基づく新カリキュラムが施行された。従来全学教育科目として行われていた教養から専門への橋渡しとなる科目(B科目群)は、実質廃止・改編され専門科目として行われることになった。必修単位数も47単位から30単位へ大幅に削減され、履修単位数の上限も設けられた。また、新生を対象に始まった少人数教育「教養セミナー」は、その有効性の評価法と小グループを構成する教員及び学生の専門性の違いに関する問題点を含みながらも、平成18年度も実施された。医学部は、全学教育に於いて選択科目群の中核の一つである「人間科学分野」の責任部局として運営を担っている。本年度医学科からは、講義科目ではのべ91名の教員が15科目の授業を担当した。また、19名の医学科教員が教養セミナーを担当した(表1)。

B. 専門教育

平成14年度より1年次では、全学教育授業日が週3日間に減り専門教育授業日が週2日間に増加すると共に、新カリキュラムが導入されている。従来全学教育で行われていた専門準備科目がなくなり、以前から行われている「人間生物学」に加えて「細胞生物学」「医学統計学」「生物化学」「生物・化学実習」が新たに専門科目に付け加えられた。特に、長崎大学医学部医学科の特色ある教育として「原爆医学概論」が平成14年度から、また「医学は長崎から」が平成15年度から新規科目として開始された。1年次「医と社会」では、医学科・保健学科の共修の授業も企画された。また、学生による授業評価と表裏一体をなすものとして学生の成績評価の厳格化が求められ、2年次から3年次への進級バリアーが新たに設けられた。新カリキュラム2年次及び3年次に於いては、基本的には従来の枠組みを維持しながら、コア・カリキュラムの積極的な活用による授業時間の短縮を行い、一方でより進んだ内容を少人数グループ形式の選択必須科目と

して提供する「医学ゼミ」を平成15年度から導入した。3年次のリサーチセミナーは、昨年と同様各基礎教室に3名以内の学生が配属された。また、総計15名の学生が海外実習に参加した(表3)。臨床実習協定締結施設は38施設に増加し、臨床教授・臨床助教授は22名となった(表4)。

平成18年度の卒業生は108名でその国家試験合格率は90.7%であった(既卒者を加えると86.7%)。

C. 共用試験

本年度は昨年度と同様に「臨床実習開始前の共用試験」の問題作成と共用試験が行われた。共用試験とは、知識・技能・態度をコンピューター試験(CBT)と客観的臨床能力試験(OSCE)の二本立てで評価するものである。CBT実施に向けて本学にも100題以上の問題作成が依頼され、CBT問題作成委員会を組織して問題作成及びそのブラッシュアップを行った。また、CBTは、共用試験実施機構からの派遣監督者の出席のもと、平成19年1月22日、23日の2回に分けて実施し、再試験は2月27日に行われた。OSCEは、4年次後期科目「診断学」の試験として実施され、外部評価者として6名の評価委員が参加した。この共用試験は4年次から5年次への進級要件となっているが、受験者全員が合格した。

D. 医学教育高度化への試みと第6回医学部医学科FDの実施について

課題探索・自己問題解決型学習能力の賦与、全人的医療人教育の場としての離島活用及び臨床実習の高度化を目指し、平成16年度から5年次各科ローテーションを従来の13組各3週から14組各2週に短縮し、5年次にProblem Based Learning(PBL)チュートリアルを導入すると共に、一週間にわたる離島医療実習を新たに開講した。更に6年次に高次臨床を実施した。特にこの離島医療実習への取り組みは、平成16年度特色ある大学教育支援プログラムに採択された。

また、医師国家試験の実施時期の繰り上げと受験回数制限及び本学に於ける合格率の低迷を受けて、最終試験(卒業試験)のあり方に関して総合試験の導入と卒業判定のあり方について決定した。

第6回医学科FDは、千葉大学大学院医学研究院 福田康一郎教授をお招きし、「医学教育モデル・コアカリキュラムを取り巻く状況」という表題で御講演頂いた。その後ワークショップと全体討論を行った。今回のFDでは、49名が出席し、熱心な議論を行った。これらの討議内容が、本学医学教育の更なる改革に向けた有効な一手につながる事を祈念する。

(文責：医学部医学科 教務委員長 中園一郎)

表1 平成18年度 医学部医学科教員の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部医学科教員

分野	授業科目名	担 当 教 員
共通基礎科目	教養セミナー	中園一郎、平野明喜、北岡 隆、永山雄二、吉浦孝一郎、上園保仁、松本逸郎、竹島 直、山田恭暉、塚崎邦弘、黒川 衛、田中邦彦、秋野公造、藤村幸一、森内良三、分部哲秋、山近史郎、野俣浩一郎、松本武浩
	教養特別講義	相川忠臣、岡市協生
情報処理科目	情報処理入門	三根眞理子、本田純久
健康・スポーツ科学科目	健康科学	青柳 潔、難波裕幸、諸岡浩明、今村 明、大曲勝久、中根秀之、山近史郎、安部恵代、伊東 勉、井上統夫、山本智一、芦澤直人
人間科学科目	人間の科学	小澤寛樹、篠原一之、中園一郎、永田 泉、森 望、下川 功、増崎英明、大津留 晶、池松和哉、田川正人、岡田雅彦、古賀成彦、近藤達郎、守屋孝洋
	生体の機能	金武 洋、近藤宇史、澄川耕二、丹羽正美、高橋晴雄、北岡 隆、永田 泉、瀬戸信二、井原義人、上園保仁、野俣浩一郎、塚崎邦夫、林 日出喜、山下康子、田中邦彦、泉川公一
	生命の科学	由井克之、中込 治、中込とよ子、アハメド・カムルディン、本間季里、境 徹也、松本逸郎
	人間と環境	今村 明、中根秀之、山本智一
	生体の構造	小路武彦、松山俊文、関根一郎、菱川善隆、中山敏幸、中島正洋
自然科学科目	数理科学	近藤久義
	生物の科学	伊藤 敬、津田亮一、上園保仁、坂口末廣
総合科学科目	現代の生命像	兼松隆之
	情報と歴史	相川忠臣
	平和講座	三根眞理子
	放射能の光と影	上谷雅孝、三根眞理子

B. 全学教育関連委員会の医学部医学科委員

委 員 会		委 員
全学教育実施委員会		中園一郎(教務委員長)
全学教育実施委員会 (科目別専門委員会)	教養セミナー専門委員会委員	永山雄二
	教養特別講義専門委員会委員	本多正幸
	情報処理科目専門委員会委員	柴田義貞
	健康・スポーツ科学専門委員会委員	進藤裕幸
	外国語科目専門委員会委員	由井克之
	人文・社会科学専門委員会委員	青柳 潔
	人間科学専門委員会委員	小路武彦
		篠原一之
		北岡 隆
	自然科学専門委員会委員	佐々木 均
		伊藤 敬
		佐藤 浩
総合科学専門委員会委員	下川 功	
留学生用科目専門委員会委員	森内浩幸	

表2 平成18年度 1～6年次授業科目(系) 責任者

学年	授業科目	責任者	学年	授業科目	責任者
1 年 次	医と社会(医学入門)	小澤 寛樹	4 年 次	視覚系	北岡 隆
	人間生物学	伊藤 敬		耳鼻咽喉口腔系	高橋 晴雄
	細胞生物学	山下 俊一		免疫・アレルギー疾患系	江口 勝美
	医学統計学	柴田 義貞		皮膚系	佐藤 伸一
	生物化学	伊藤 敬		精神系	小澤 寛樹
	生物・化学実習	伊藤 敬		小児系	森内 浩幸
	原爆医学概論	朝長 万左男		感染症系	中込 治
	医学は長崎から	相川 忠臣・小路 武彦		法医学系	中園 一郎
	人体構造系 I	岡本 圭史		診断学	大園 恵幸
2 年 次	医と社会	相川 忠臣・中園 一郎	放射線医学	上谷 雅孝	
	人体構造系 II	岡本 圭史	臨床検査医学	上平 憲	
	神経・感覚器系	森 望	外科治療学	兼松 隆之	
	発生・組織系	小路 武彦	社会医学	青柳 潔・柴田 義貞	
	動物性機能系	篠原 一之	医学ゼミ	中園 一郎	
	内臓機能・体液系	相川 忠臣	5 年 次	臨床疫学・医療情報学	大園 恵幸・本多 正幸
	生体分子系	伊藤 敬		臨床薬理学	佐々木 均
	分子遺伝系	新川 詔夫		内科総括講義	江口 勝美
医学ゼミ	中園 一郎	精神神経科総括講義		小澤 寛樹	
3 年 次	医と社会	小澤 寛樹・相川 忠臣・中園 一郎		小児科総括講義	森内 浩幸
	医学ゼミ	中園 一郎		外科総括講義	兼松 隆之
	感染系	片峰 茂		整形外科総括講義	進藤 裕幸
	免疫系	由井 克之		泌尿器科総括講義	金武 洋
	病理総論系	下川 功		眼科総括講義	北岡 隆
	腫瘍系	松山 俊文	産婦人科総括講義	増崎 英明	
	分子病態系	近藤 宇史	脳神経外科総括講義	永田 泉	
	環境因子系	岡市 協生	形成外科総括講義	平野 明喜	
	薬理系	丹羽 正美	心臓血管外科総括講義	江石 清行	
	病理各論系	田口 尚	東洋医学	丹羽 正美	
	リサーチセミナー	永山 雄二	総合病理学	関根 一郎	
	内分泌・代謝・栄養系	江口 勝美	PBL チュートリアル	小澤 寛樹	
	循環器系	矢野 捷介	臨床実習	小澤 寛樹	
	呼吸器系	河野 茂	6 年 次	内科総括講義	江口 勝美
血液・リンパ系	朝長万左男	医と社会		小澤 寛樹	
4 年 次	医と社会	小澤 寛樹		最終臨床総括講義	矢野 捷介
	脳・神経系	中村 龍文		高次臨床実習	大園 恵幸
	運動系	進藤 裕幸			
	消化器系	関根 一郎			
	腎泌尿器系	金武 洋			
生殖系	増崎 英明				

表3 平成18年度 後期 「リサーチセミナー」

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	森 望	脳の老化と神経再生：神経分化と神経再生のメカニズムを 探る	1
	森 望	神経活動とシナプス形態：Homer-Shc系分子によるアクチン 骨格制御の分子機構	1
	森 望 森井 博史	神経微小管のアセチル化制御：寿命遺伝子サーチュイン関 連分子による脳老化制御	1
	森 望	健康寿命シグナルへの緑茶効果：高濃度カテキンの秘密	1
解剖学第二	岡本 圭史 分部 哲秋 佐伯 和信	人体の局所解剖	3
解剖学第三	小路 武彦 菱川 善隆 安樹 才 佐藤 陽子	精子形成過程に於けるエストロゲン受容体 α 及び β 発現と その生物学的意義	2
	小路 武彦 菱川 善隆 安樹 才 佐藤 陽子	鉄過剰摂取ラットモデルに於ける肝再生動態の解析	2
生理学第一	松本 逸郎	ストレス誘発の摂食抑制機構の解明	2
生理学第二	篠原 一之 西谷 正太	非侵襲的脳イメージング装置を用いた母子間コミュニケー ションの科学	2
	中川 竜太	医療従事者と子供の音声による円滑なコミュニケーション 法	2
	土居 裕和	情動反応の個人差を規定する脳科学的因子の解明	2
生化学	伊藤 敬	胚細胞の未分化維持機構を探ろう	1
薬理学第一	丹羽 正美	血液脳関門 (BBB) と病態モデル	1
	田中 邦彦	癌の浸潤・転移におけるタイトジャンクションの役割	1
	山下 康子	虚血性神経細胞死の機序解明と治療薬の探索	1
	中川 慎介	血液脳関門 (BBB) と薬物の中枢送達	1
薬理学第二	上園 保仁	受容体、イオンチャネル活性化の分子機構解析-発現細胞系 を用いて	2
	林 日出喜	細胞死 (アポトーシス) 関連遺伝子のクローニング	1
病理学第一	小松 利光 下川 功	酸化ストレスに対するカロリー制限の影響：転写因子 Foxo 1 の役割	1
	樋上 賀一	カロリー制限による白色脂肪組織の形質変化	2
	千葉 卓哉	カロリー制限による抗老化作用の解析：転写制御を中心と して	1

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
病理学第二	田口 尚	進行性腎障害の病理学的研究	2
公衆衛生学	青柳 潔 安部 恵代	医学教育	3
	高村 昇 尾崎 誠	生活習慣病の分子疫学	2
	高村 昇 尾崎 誠	国際ヒバクシャ医療協力と分子疫学	1
	安部 恵代 青柳 潔	地域在住中高年者におけるQOL	1
免疫機能制御学 (医動物)	本間 季里	自然免疫と獲得免疫における転写因子IRF-4の役割	1
	都田 真奈	抗マラリア防御免疫応答と記憶の機構解明	1
	由井 克之	マラリア感染によるT細胞免疫応答の修飾機構	1
法医学	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	損傷に応答する蛋白質・mRNAの検索	1
	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	窒息に応答する蛋白質・mRNAの検索	1
原研病理	関根 一郎 七條 和子 松山 睦美	放射線障害の病理学的検討	1
	中山 敏幸	消化器腫瘍の浸潤増殖におけるサイトカイン等関連蛋白の発現検討	1
	中島 正洋	原爆被爆者組織における遺伝子不安定性の同定	1
原研放射	岡市 協生	マイクロアレイを用いたp53の機能解析	1
	井原 誠	DNA損傷修復系の解析	1
原研生化	浦田 芳重	「酸化ストレスに対応する細胞のレドックスシステムの分子機構」	1
	後藤 信治	解毒酵素の細胞内小器官への移行機構とその機能解析	1
原研疫学 原研情報	柴田 義貞 本田 純久 三根 真理子	厚生統計からみる長崎県	2
原研遺伝	吉浦 孝一郎	疾患遺伝子解析(1)	2
	三輪 晋智	疾患遺伝子解析(2)	1
	近藤 新二 (遺伝子実験施設)	疾患遺伝子解析(3)	1

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
原研細胞	山下俊一 (ログノビッチ タチアナ)	ベラルーシ共和国における甲状腺疾患の分子疫学調査	2
	難波裕幸	放射線誘発甲状腺がんの研究	2
	光武範吏	甲状腺がん幹細胞研究	2
原研分子	永山雄二 斉藤巨樹	自己免疫と腫瘍免疫	2
感染防御	河野友子	成人T細胞性白血病の病態候補遺伝子の解析	1
	安井 潔	リンパ球機能を制御する転写因子IRF-4の機能解析	1
感染分子	森内良三	ウイルス発がん研究	1
	西田教行	プリオン病原体の感染様式	2
	石橋大輔	プリオン感染関連因子に関する研究	1
分子疫学	中込 治 中込とよ子 荻野倫子	ウイルス性胃腸炎の分子疫学的研究	3
比較動物医学 分野	佐藤 浩 大沢 一貴	サル類のヘルペスウイルスについて	1
熱分子構造	森田公一 余福勲	遺伝子工学的手法を用いたニパウイルス抗原の産生とそれを用いた血清診断法の開発	2
熱病原因子	平山壽哉	ヘリコバクターピロリの空胞化毒素の毒性発現	1
熱感染細胞	神原廣二 柳 哲雄	ロンボク島マタラム市内スラム地区にある小学校の寄生虫疾患調査	3
熱寄生行動	三井義則	住血吸虫症にたいするアルテスネイト（抗マラリア薬）の効果の検証	1
熱炎症細胞	藤井仁人	新奇GTミスマッチDNA結合タンパク質の解析	1
熱病変発現機序	鳥山 寛	肝疾患の臨床病理学的研究	2
熱生物環境	高木正洋 都野展子	アフリカマラリア媒介蚊の吸血宿主選好性	2
熱社会環境	溝田 勉	ODA（政府開発援助）を活用する国際医療協力	1
	谷村 晋	長崎市における受療機会の地理的格差	1
	後藤 健介	離島医療におけるGISおよび衛星データ解析の応用	1
熱分子免疫	平山謙二 安波道郎 菊池三穂子	マラリア、デング熱重症化に関連する遺伝子多型解析	3

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
熱帯感染症研究センター	門 司 和 彦 嶋 田 雅 暁 金 子 聰 皆 川 昇 一 瀬 休 生 堀 尾 政 博	ケニア・ナイロビ拠点における熱帯病の疫学に関する研究	5
長崎大学病院 病 理 部	林 徳真吉 安 倍 邦 子	1) 診療における病理診断の位置づけと役割の認識。 2) 臨床－病理症例カンファレンスで症例呈示。 3) 日本語または英語で症例報告執筆。	2

海外派遣実習生

大学名・地域	実習学生数
ベラルーシ医科大学	4
ロンボク島	3
ケニア	5
ガーナ	1
チェンマイ	2
合 計	15

※交流協定による海外派遣

表 4 A 平成 18 年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施 設 名	協 定 年 月 日
1	長崎市立市民病院	平成 8 年 5 月 31 日
2	日本赤十字社 長崎原爆病院	平成 8 年 5 月 31 日
3	長崎市立病院成人病センター	平成 8 年 6 月 1 日
4	長崎県立大村病院	平成 8 年 6 月 1 日
5	社会福祉法人 長崎市障害福祉センター	平成 8 年 6 月 1 日
6	財団法人 長崎県総合保健センター	平成 8 年 6 月 1 日
7	医療法人春回会 長崎北病院	平成 10 年 5 月 20 日
8	江上耳鼻咽喉科医院	平成 11 年 5 月 31 日
9	医療法人祥仁会 西諫早病院	平成 12 年 6 月 19 日
10	医療法人白十字会 佐世保中央病院	平成 12 年 7 月 21 日
11	長崎市中央保健センター	平成 12 年 11 月 24 日
12	医療法人友愛会 介護老人保健施設にしきの里	平成 12 年 11 月 24 日
13	医療法人清潮会 介護老人保健施設みどりの里	平成 12 年 11 月 24 日
14	日本海員掖済会 長崎病院	平成 13 年 5 月 11 日
15	阿南皮膚科医院	平成 13 年 5 月 11 日
16	医療法人北辰会 久保皮膚科医院	平成 13 年 5 月 11 日
17	国立療養所長崎病院	平成 13 年 5 月 11 日
18	ゆきなり・クリニック	平成 13 年 7 月 10 日
19	虹が丘病院	平成 13 年 8 月 7 日
20	医療法人昌生会出口病院	平成 14 年 7 月 18 日
21	国立病院長崎医療センター	平成 15 年 6 月 12 日
22	佐世保市立総合病院	平成 16 年 8 月 1 日
23	長崎県五島保健所	平成 16 年 8 月 1 日
24	五島市国民健康保険三井楽町診療所	平成 16 年 8 月 1 日
25	五島市国民健康保険玉之浦診療所	平成 16 年 8 月 1 日
26	岐宿町岐宿診療所	平成 16 年 8 月 1 日
27	山内診療所	平成 16 年 8 月 1 日
28	長崎県離島医療圏組合 五島中央病院	平成 16 年 8 月 1 日
29	長崎県離島医療圏組合 富江病院	平成 16 年 8 月 1 日
30	長崎県離島医療圏組合 奈留病院	平成 16 年 8 月 1 日
31	五島市健康政策課	平成 16 年 9 月 1 日
32	五島市社会福祉協議会福江支所	平成 16 年 9 月 1 日
33	離島医療圏組合上五島病院	平成 17 年 9 月 1 日
34	小値賀町国民健康保険診療所	平成 17 年 9 月 1 日
35	上五島保健所	平成 17 年 9 月 1 日
36	新上五島町健康推進課	平成 17 年 9 月 1 日
37	新上五島町社会福祉協議会	平成 17 年 9 月 1 日
38	上五島保健所長	平成 18 年 7 月 5 日

B. 平成 18 年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授一覧

称 号	氏 名	施 設 名
臨床教授	鈴木 伸	長崎市立市民病院
臨床教授	宮田 昭海	長崎市立市民病院
臨床教授	中島 成人	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	古河 隆二	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	森田 茂樹	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	谷口 英樹	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	中崎 隆行	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	田所 正人	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山 尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	田浦 幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	江上 徹也	医療法人江上耳鼻咽喉科医院
臨床教授	千葉 憲哉	医療法人祥仁会西諫早病院
臨床教授	高橋 克朗	長崎県立精神医療センター
臨床教授	藤岡 ひかる	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
臨床教授	上之郷 眞木雄	佐世保市立総合病院
臨床教授	神田 哲郎	長崎県離島医療圏組合五島中央病院
臨床教授	古井 純一郎	長崎県離島医療圏組合五島中央病院
臨床教授	白濱 敏	長崎県離島医療圏組合上五島病院
臨床教授	辻 畑 光宏	特別医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	佐藤 聡	特別医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	植木 幸孝	医療法人白十字会佐世保中央病院
臨床助教授	松本 一成	医療法人白十字会佐世保中央病院